

九州大学 大学文書館ニュース

第41号

2018. 3. 31

目 次

楠本家資料と楠本正継博士……………2	大学文書館日誌抄録……………6
福岡女学院アーカイブズの構築にむけて…………4	九州大学百年史編集小委員会名簿……………10
九州大学大学文書館委員会名簿……………6	九州大学百年史編集室名簿……………10
九州大学大学文書館名簿……………6	百年史編集室日誌抄録……………10



「九州帝国大学法文学部支那哲学史講座の卒業写真」（1934年。大学文書館所蔵）

大正13（1924）年9月に創設された九州帝国大学法文学部の草創期における写真の1枚。昭和9年春に、支那哲学史講座（文科）の教官と学生たちが、卒業を記念して撮影したもの。場所は法文学部本館の正面玄関前の広場（右奥は工学部本館）。中央が中国哲学研究者の楠本正継教授（本文の柴田篤「楠本家資料と楠本正継博士」を参照）。左端は、のちに九州大学教養部教授となった岡田武彦氏。右端は、のちに名古屋大学文学部教授となった大濱皓氏。この両氏が3月に卒業している。左から3人目は、楠本教授の後を継いで文学部中国哲学史講座の教授となった山室三良氏。いずれも戦後の中国哲学研究の一翼を担うことになる。充実期を迎えた頃の楠本教授を中心に、師弟の間でどのような会話がなされたのか、思わず耳を澄ましたくなる1枚の写真である。

楠本家資料と楠本正継博士

—大学文書館所蔵の寄贈資料を中心にして—

柴 田 篤

1. はじめに一針尾と楠本家

長崎県佐世保市の最も南に位置する針尾^{はりお}島は、昔から風光明媚な土地柄で、南端には西海橋が架かり、近年は東部に異国情緒あふれるハウステンボスが作られ、沢山の観光客でにぎわっている。幕末、この島は二人の優れた儒学者を輩出する。平戸藩儒、楠本端山（名は後覚、1828～1883）と楠本碩水（名は孚嘉、1832～1916）の兄弟である。共に山崎闇斎に始まる^{きもん}崎門の朱子学を伝承し、維新後は郷里針尾に私塾「鳳鳴書院」を開いて子弟教育を行い、幾多の俊秀を世に送り出した。

この端山の孫が、九州帝国大学法文学部の教授で、中国哲学研究者であった楠本正継^{まさつぐ}博士（1896～1963）である。このたび同氏旧蔵の最後の資料が、九州大学大学文書館に寄贈された。その内容と意義について若干の報告を行うことにする。

2. 楠本正継の生涯と学問

楠本正継は、明治29（1896）年に端山の子である海山（名は正翼^{まさつげ}）の長子として針尾に生まれ、大正8（1919）年に東京帝国大学文学部支那哲学科に入学する。父海山が急逝した翌年に東大を卒業した正継は、浦和高等学校の教授を経て、大正15（1926）年10月に九州帝国大学法文学部の助教授となり、昭和2（1927）年5月に支那哲学史講座（のち九州大学文学部中国哲学史講座）の初代教授に就任する。翌3年から2年間、哲学および中国哲学史研究のため、ドイツ・イギリス・中華民国に留学をする。

帰国後、宋明時代儒学思想の体系的な研究を本格的に開始し、楠本家の家学を基盤として、西洋哲学を活かしつつ、新しい中国哲学研究の手法を確立していった。昭和19（1944）年に附属図書館長となり、貴重図書の学外疎開など困難な事業を行う。昭和35（1960）年に定年退官し名誉教授の称号を得る。その研究の成果は『宋明時代儒学思想の研究』という大著にまとめられ、2年後に出版される。宋明思想研究に一大金字塔を打ち建てたこの業績に対して西日本文化賞、朝日賞が相次いで授与される。しかし、出版後まもなく病床に臥

し、昭和38（1963）年12月23日、福岡市の自宅にて享年67で逝去する。

3. 楠本家旧蔵の書籍と史資料

楠本家（針尾・福岡）には、端山—海山—正継と三代にわたって集められた膨大な量の書籍が収蔵されていた。正継没後、針尾の旧宅にあった端山・海山関係書籍及び史資料類は長崎県立長崎図書館に、正継の旧蔵書



楠本正継先生像（平野遼 画）

は国士館大学附属図書館に、それぞれ「楠本文庫」として収蔵された。しかし、その後も楠本家には正継が最期まで身近に置いていた書籍類や史資料が残されていた。それらは、正継の次男にあたる楠本韶氏が大切に保管していたが、同氏没後、ご遺族の意志により平成26（2014）年7月に一括して九州大学に寄贈された。

寄贈された資料は、二つに分けられる。一つは宋明儒学及び江戸儒学関係の漢籍・和書（刊本と写本）や書画・書牘類で、これらは附属図書館に収蔵することにした。もう一つは、楠本博士の生涯及び学問研究に関する資料で、これらは大学史の資料として大学文書館に収蔵することにした。以下、後者の資料群の内容について紹介する。

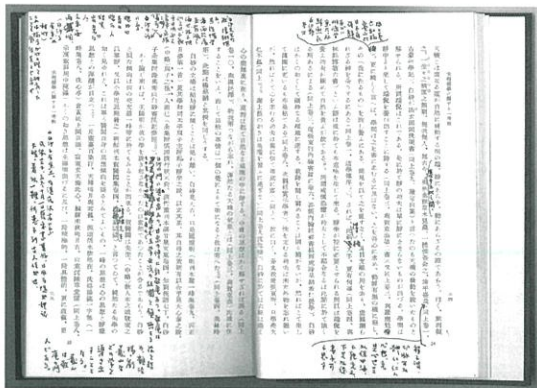
4. 楠本正継関係資料

（1）学術資料

楠本博士生涯の研究の集大成である『宋明時代儒学思想の研究』は、昭和37（1962）年11月に初版が発行された後、没後の同39年に、岡田武彦氏ら門人の手によって「補遺一・二」と索引が付され、改訂版が出される。「補遺一」は、後学の参考の資に供するために、残された「草稿」の中から、初版時には省略された部分を「備考」と「参考」として抄録する。「補遺二」は、初版出版後

に著者自身が補訂の筆を加え、欄外に書き記したものをまとめて収録する（再版「備考」）。今回の楠本家資料の中には、この草稿と本人書き込み本が含まれている。また黒表紙・黒紐綴で「宋明学史」という表題の謄写本9冊には、正継の直筆で、「米国ロックフェラー財団ノ援助ニヨリ昭和三十一年十月ヨリ同三十五年迄、執筆ニ従事シタ「宋明時代思想ノ研究」ヲ纏メタモノ。余ノ長年ノ斯学研究ノ成果ガココニ在ル」と記されている。表題の脇には、「出版ノ際ハ右ノ如ク改題ノコト」として「宋明時代儒学思想の研究」と記されている。名著誕生の過程を窺わせる貴重な資料と言える。

また、修訂は著書に限らない。手元に置いていた論文の抜き刷り類には、ほとんどに細かな書き込みがなされている。多くは自著執筆の際に活用したと思われるが、これらも楠本博士の研究や思索の過程を考察する上で不可欠の資料である。さらに楠本家資料の中には、著書・論文の原稿のみならず、論文執筆までに記録された自筆の筆記類や講義ノートなども数多く残されている。



「宋明儒学に関する一考察」抜刷自筆修訂

(2) 個人資料

楠本博士は、自らの履歴に関する資料を最期まで保管していた。卒業証書、学位記をはじめ九大時代の各種辞令、叙勲関係資料や、欧州留学時に携帯した旅券などである。また、日記や写真、書

簡類も残されている。特に滞欧・滞中時代に家族のもとに書き送った百点を超える絵葉書や書簡には、様々な所感が記されている。たとえば、ミケランジェロのモーゼの絵葉書に、「ローマに来て益々西洋の藝術が人體美の藝術なること其文化が自然と対する意味の人力の文化なる事を感じる。之に反し東洋の藝術は結局自然美のそれであって其文化も亦自然と相克し得ざるものであるらしい。」と綴られている。私信ではあるが、学術的な面からも興味深い内容が含まれている。

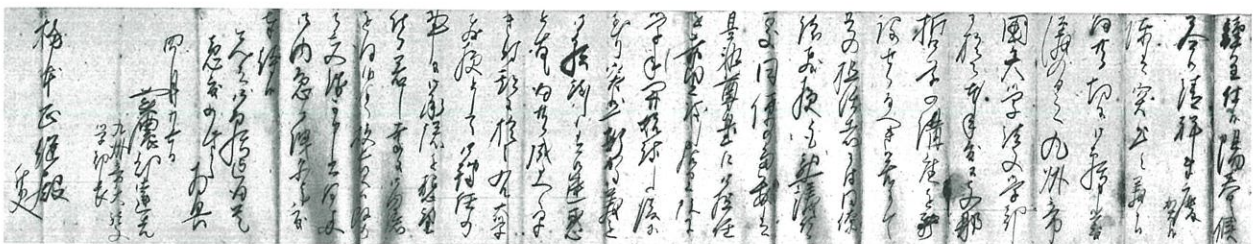
寄贈資料の中には、九州大学大学史の見地からも価値ある資料が含まれている。それは、九州帝国大学法文学部の設立委員で学部長事務取扱の任にあった東大教授の美濃部達吉（1873～1948）が、九大着任を楠本正継本人に直接要請した書簡である。その後の両者のやりとりなども含めて、創設期の法文学部の歴史を研究する上で貴重な資料と言える。

また、資料の中には、ある著名な画家の作品も存在する。楠本教授が定年退官するに当たって退官記念事業会が組織され、記念品として肖像画を贈ることになる。その時に肖像画を制作したのが、北九州在住の洋画家・平野遼（1927～1992）である。油彩画2点が制作され、1点（10号）は額装されて文学部中国哲学史研究室に寄贈され、もう1点（8号）は本人に贈られた。従来未公開であった後者とそれに添えられた水彩や素描の画稿は、画家の制作過程が窺える貴重な資料である。

5. おわりに—大学史資料として

今回九州大学に寄贈された「楠本家資料」は、近世から近代にかけての儒学史資料、楠本家の家学資料としての価値もさることながら、草創期から戦後にかけて活躍した九州大学の一教官の全体像を示すものとして、大学史及び学術史の観点からも極めて有益な資料といえる。今後さらに十分な調査と整理を行うと共に、分類と保存や活用の方法について綿密な検討を行う必要がある。

（九州大学名誉教授・大学文書館協力研究員）



美濃部達吉の楠本正継宛書簡（部分。大正15年4月27日付）

福岡女学院アーカイブズの構築にむけて

井上 美香子

1. 福岡女学院資料室の設置とその構成

本学院の創立記念日にあたる2014年（平成26）5月17日、125周年記念館の6階に資料室および展示室が開設された。それ以前から本学院に「資料室」は存在していたが、実際いつ頃から「資料室」と呼称される部屋が置かれるようになったのかその詳細は明らかではない。但し、福岡女学院ではこれまで記録のために年史を5年毎に作成してきた経緯があり、年史編纂のための資料を保管するという意味で「資料室」が置かれていたようで、その資料の管理は総務課が担当してきた。

2014年（平成26）6月に「福岡女学院資料室規程」制定のもと福岡女学院資料室（以下、資料室と記載する）が設置され、2017年（平成29）4月から資料室の整備・充実に本格的に着手することとなった。その背景には、歴史と伝統から本学院の理念を改めて確認し、その揺るぎなき理念を基盤に「改革」を実施し創立150周年にむけて150年史を出版しようとする福岡女学院の将来構想がある。

資料室設置当初（2014～2016年度）は非常勤事務職員1名のみであった室員も、2017年度より専任教員1名と非常勤事務職員1名の計2名となった。また、資料室の事業を推進するための運営委員会（院長、各学校長、事務局長、各大学教員1名、高校及び中学教員1名、資料室教員1名、事務職員若干名）も置かれており、その運営および実務については、九州大学大学文書館の折田悦郎教授を院長特別顧問に迎え、指導を仰ぎながらアーカイブズの構築に向け作業をすすめている。

2. 目的と業務

「福岡女学院資料室規程」によると、資料室の目的は、「福岡女学院の歴史及び伝統を後世に継承するために学院史に関する資料の収集、保存、調査、研究等を行い、本学院の発展に寄与すること」であり、その業務は（1）資料の収集、整理及び保存、（2）資料の展示、閲覧、貸出及び情報の提供、（3）学院史の調査及び研究、（4）学院史に関する出版物の編集及び刊行、（5）その他必要と認める事業、と定められている。

資料室は、展示室（104㎡）・書庫（30.83㎡）・作業室（18.26㎡）・事務室兼書庫（40.61㎡）から成る。書庫に文書資料、事務室兼書庫には学内発行誌等を保管しており、作業室には机・椅子・パソコン等を設置し筆者はその部屋で業務に従事している。本来ならば、まず、学院内の各部署で保存されている資料を一斉調査し移管可能な文書資料を収集し目録化する作業に着手したいところである。しかし、筆者が資料室に着任した2017年4月の段階で書庫と事務室兼書庫には資料が入った多くのダンボールが山積みされている状態であり、新たに資料を収集してもそれを配架する場所が無い状態であった。そのため、新たな資料の評価・選別を行う場所や資料を保管するためのスペースを確保することが第一の課題となった。そこで、文書資料を保管している書庫を、資料を評価・選別しながら新たな資料を保管する場所として活用できるように内装設備と環境整備に着手することとなった。また、書庫内にはキャビネットに保管されたままの資料も多くあるため、学校別（幼稚園・中学・高校・短大・大学）および時代別に分類し直す作業も同時進行ですすめることとなった。

書庫の環境整備も一段落する2018年夏頃には、総務課の協力のもと学院内の各部署で保存されている資料を一斉調査する予定である。しかし、資料室には資料を保管するスペースが余分にある訳ではないため、学内にある資料の一斉調査については、資料の移管というよりもどのような資料がどこの部署で保管されているのか資料の所在等を



正門からみた125周年記念館

資料室で把握することが主なねらいである。アーカイブズにとって、資料を保管する場所の確保は極めて重要な問題である。特に、本資料室のように収納スペースが非常に限られているアーカイブズでは、限られた空間を最大限に活用して資料を保存・管理していくための工夫が常に求められる。非常に限られた収納スペースでどのように資料を保存・管理していくのか、同様の課題に直面するアーカイブズに対して、今後、本資料室が1つのモデルを提示していくことができるようになればと考えている。

3. 新たな歴史の発掘と楽しめる展示室を目指して・福岡女学院の新たな歴史の発掘

福岡女学院は、現在のセーラー服の原型となるツーピース型のセーラー服を制服として採用した日本で最初の学校である。そのため、セーラー服の歴史に関する問い合わせや取材を受けることも多く、福岡女学院でもこれまで学院の歴史を語る際、セーラー服の歴史を全面に押し出してきた。勿論、セーラー服を日本で最初に採用したことは、服飾史、教育史等の観点からも注目すべき点である。しかし、福岡女学院の歴史は何もセーラー服だけではない。キリスト教系の学校として、福岡県の女子教育を牽引してきた学校の1つでもある。福岡県の女子教育において福岡女学院はどのような役割を果たし、そして、どのような人材を輩出してきたのか。セーラー服以外の福岡女学院の歴史を新たに発掘していくことが資料室の大きな課題となる。

そこで、資料室では現在、寺園喜基院長のもと「福岡女学院史を語る会」を毎月1回開催し、同窓生や元教職員を対象に座談会形式で聞き取りを行っている。勿論、福岡女学院の新たな歴史を発掘していくためには、所蔵する資料を丹念に紐解いていく作業が不可欠である。しかし、同窓生や元職員の高齢化が進み、戦前や戦後直後の福岡女学院を知る方は年々減少傾向にあることから、資料室の取り組みとしてまずは聞き取り調査を実施することにしたのである。本年度の活動をもとに、来年度からは個別にオーラルヒストリーを実施することとなっている。

・楽しんで見学して頂ける展示室を目指して

福岡女学院は前述のとおり、幼稚園、中学、高校、大学・短期大学部、大学院から構成される学校である。そのため、展示室には、在校生や保護



展示室の様子

者、教職員はもとより、同窓生や地域住民の方、福岡女学院に体験入学に来た中学生や本学への受験を検討している高校生も見学に訪れる。したがって、展示室は、在校生や教職員にとっては自身が所属する学校の歴史を学ぶ場所として、同窓生にとっては思い出に浸れる場所として、そして、地域住民の方や本学への受験を考えている方にとっては福岡女学院の歴史と今を知ってもらう場所として存在している。

つまり、展示室は自校史教育的要素と広報的要素を含んでいるのであり、この2つの要素を満たし、かつ、見学の目的や年齢層も異なる方々に楽しんで見学いただける展示を行っていくことが必要となる。現段階では、展示のリニューアルについては未だ着手できていない状態であるが、広報校友課の協力を得ながら検討をすすめていく予定である。

周知のとおり、私立学校を取り巻く財政状況は厳しく、そのため、学生の教育組織ではないアーカイブズの必要性について理解を得ることは非常に難しい。こうしたなか、新たに専任教員を配置しアーカイブズの整備・充実を目指した福岡女学院資料室の事例は注目に値するものであり、アーカイブズの立ち上げを任された者として改めて身が引き締まる思いである。

福岡女学院資料室はアーカイブズの立ち上げに向け動き出したばかりである。そのため、本稿では資料室の取り組みというよりも今後の計画に多くを割いてしまった。今後は、この計画を着実に実施し、福岡女学院の創立150周年にむけた「進化」とアーカイブズの発展に寄与することができるよう、他のアーカイブズの取り組みなどの情報を収集しながら研鑽を積んでいきたいと考えている。

(福岡女学院資料室 講師)

九州大学大学文書館委員会名簿

委員長	副学長	宮本 一夫	委員	農 院	准教授	高橋 義文	
委員	文 書 館	教 授	折田 悦郎	芸 工 院	准教授	Remijn Gerard	
〃	〃	准教授	藤岡健太郎	生 防 研	教 授	馬場 義弘	
〃	人 文 院	教 授	佐伯 弘次	基 幹	教 授	福田 千鶴	
〃	比 文 院	教 授	中野 等	先 導 研	教 授	永島 英夫	
〃	法 院	教 授	熊野 直樹	〃	生 物 環 境	教 授	吉田 敏
〃	シ 情 院	教 授	荒木啓二郎	〃	博 物 館	館 長	緒方 一夫
〃	博 物 館	准教授	三島美佐子	〃	総 務 部	部 長	新津 勝二
〃	韓 セ	教 授	永島 広紀	〃	理 学 部 等	事 務 長	黒岩 由美
〃	総務部総務課	課 長	田村 哲之	〃	図 書 館	事 務 部 長	木村 優
〃	経 院	准教授	鷺崎俊太郎				(2018年1月1日現在)

九州大学大学文書館名簿

館 長	副学長	宮本 一夫	協力研究員	西南女学院大学教授	新谷 恭明
副館長	文 書 館	教 授	折田 悦郎	東京大学教養学部准教授	山口 輝臣
専任教員	〃	准教授	藤岡健太郎	医学歴史館学芸員	赤司 友徳
兼任教員	人 文 院	教 授	佐伯 弘次	北九州市総務局総務部総務課	市原 猛志
〃	比 文 院	教 授	中野 等	総務課長 (法令審議室長)	田村 哲之
〃	法 院	教 授	熊野 直樹	事務職員	岡本 正子
〃	シ 情 院	教 授	荒木啓二郎	事務補佐員	川畑 由美
〃	博 物 館	准教授	三島美佐子	〃	徳安 祐子
〃	韓 セ	教 授	永島 広紀	〃	中村 江里
協力研究員	九州大学名誉教授	東定 宣昌	〃	〃	西川 英治
〃	〃	植田 信廣	〃	〃	木田 貴大
〃	長崎大学名誉教授	柴多 一雄	〃	〃	江頭 実生
〃	九州大学名誉教授	柴田 篤	〃	〃	瓜生 敏子
〃	福岡市博物館館長	有馬 學			(2018年1月1日現在)
〃	西日本新聞論説委員	大西 直人			

大学文書館日誌抄録 (2016年8月～2018年1月)

- | | | | |
|----------|--|-----------|---|
| 8.3 (水) | 研究推進部学術研究推進課、附属図書館より資料移管。 | | |
| 8.5 (金) | 地球社会統合科学府等事務部、伊都図書館、農学部事務部、医系学部等事務部より資料移管。 | 9.20 (火) | 第27回大学文書館委員会開催。 |
| 8.9 (火) | 工学部等事務部、国際部国際企画課より資料移管。 | 10.5 (水) | 「九州大学の歴史」(基幹教育総合科目)開講(折田教授)。
韓国ソウル大学校学術林より大学文書館視察・資料調査のため来館。 |
| 8.27 (土) | 文学部同窓会「九州大学箱崎キャンパス学内探訪」開催(折田教授解説・案内)。 | 10.8 (土) | 「九大百年 美術をめぐる物語」展(大学文書館共催)開催(於福岡県立美術館等。～11月13日)。 |
| 9.15 (木) | 九州大学病院放射線部より資料調査 | 10.12 (水) | 工学部等事務部より資料移管。
「九州大学アカデミックフェスティ |

- バル2016」展に資料貸し出し。
- 10.17 (月) 川本光治氏 (元九大生協専務理事) より資料寄贈。
すみだ郷土文化資料館より資料調査のため来館。
- 10.24 (月) 附属図書館より資料移管。
- 10.25 (火) 樋口征次氏 (元本学事務官) 来館、資料寄贈。
- 10.26 (水) NHK福岡放送局より取材のため来館 (学徒出陣の件。11月1日、7日、18日、12月1日も同様。)
- 10.27 (木) 箱崎キャンパス、ドローン撮影 (2018年6月6日、12月21日も同様)。
- 11.4 (金) 中楯潔氏 (経済学部卒業生) より資料寄贈 (9日も同様)。
- 11.8 (火) TVQ九州放送よりアインシュタインの来学につき照会、資料提供。
- 11.11 (金) 医学歴史館と共同で井口潔医学部名誉教授等、医学部卒業生への学徒出陣、軍医制度についての聞き取り調査実施 (於大学文書館)。
総合研究博物館主催・大学文書館協力「ミュージアムカフェ「音楽と美術の夕べ」—青山熊治《九州大学工学部壁画》特別鑑賞会—」開催 (折田教授、西川虎吉博士につき解説)。
- 11.18 (金) 第28回大学文書館委員会開催 (書面回議)。
- 11.19 (土) 大学文書館・医学歴史館共同企画「九大医学部50年前の風景—塩川郁夫写真展—」開催 (於医学歴史館。～12月25日)。
- 11.22 (火) 寺園喜基福岡女学院大学長、大学文書館視察のため来館。
- 11.25 (金) 福岡放送より箱崎キャンパスの歴史の件につき照会、資料提供。
- 11.28 (月) RKB毎日放送より箱崎キャンパスの歴史の件につき照会、資料提供。
- 12.2 (金) 理学部より資料移管。
附属図書館 (伊都図書館) より資料移管。
- 12.8 (木) 折田教授、NHK福岡放送局「ロクいち！福岡 真珠湾攻撃75年 戦争に巻き込まれた学生」に出演・コメント。
- 12.13 (火) 国立台湾大学言語学研究所より大学文書館視察・資料調査のため来館。
- 12.14 (水) 学務部学生支援課より資料移管。
- 12.19 (月) 福岡市史編集委員会事務局より資料調査のため来館。
- 12.26 (月) 九大生協より資料調査のため来館、資料提供 (3月3日も同様)。
- 12.27 (火) 玉上晃事務局長、大学文書館視察のため来館。
- 1.19 (木) 西日本新聞社記者、取材のため来館 (箱崎キャンパスの歴史の件)。
- 1.24 (火) 医学部第三内科同門会より資料調査のため来館。
折田教授、NHK福岡放送局「ロクいち！福岡 九大箱崎キャンパス 消えていく学びや」に出演・コメント。
- 1.26 (木) 環境安全センターより資料移管。
- 1.28 (土) 医学歴史館第3回「歴史のうねり」セミナー開催 (折田教授、「県立福岡病院について—九大医学部の源流—」講演)。
- 2.1 (水) 第29回大学文書館委員会開催。
読売新聞社記者、取材のため来館 (九大学生運動の件)。
- 2.9 (木) 早稲田大学大学史資料センターより資料調査のため来館 (2月10日、13日～17日も同様)。
- 2.17 (金) 埋蔵文化財調査室より資料調査のため来館、資料提供。
韓国漢陽大学医学部より資料調査のため来館。
- 2.21 (火) 折田教授、テレビ西日本「ももち浜ストア 夕方版 歴史ある建物を受け継ぐ 九州大学箱崎キャンパス」に出演・コメント。
- 2.23 (木) 工学部総務課に資料貸し出し (「工学部の百年」展のため。3月2日、21日も同様)。
- 2.28 (火) 『九州大学大学文書館ニュース』第40号刊行。
九州大学大分同窓会に資料貸し出し。
- 3.1 (水) 大阪工業大学工学部教授、資料調査のため来館。
- 3.3 (金) 第2回福岡県公文書館等連絡会議開催 (於大学文書館。大濱徹也筑波大学名誉教授・国立公文書館フェロー講演。折田教授、活動報告及び館内案内)。
- 3.10 (金) 長嶋伸治外務省外交史料館長、大学

- 文書館視察のため来館。
- 3.31 (金) 『九州大学大学史料叢書』第23輯刊行。
- 4.1 (土) 藤岡健太郎百年史編集室准教授、大学文書館准教授就任。
徳安祐子氏、テクニカルスタッフ就任。
大学文書館協力研究員、同調査員を委嘱。
協力研究員
東定宣 名誉教授
植田信廣 名誉教授
柴田篤 名誉教授
柴多一雄 長崎大学名誉教授
有馬學 名誉教授・福岡市博物館長
大西直人 西日本新聞論説委員
市原猛志 北九州市総務局総務部総務課学芸員
調査員
中村俊郎氏
桂木勝彦氏
- 4.10 (月) NHK福岡放送局より取材のため来館(キャンパス移転の件)。
- 4.11 (火) 渡辺正気氏(法文学部卒業生)より資料寄贈。
「文書記録活動論」(大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻)開講(折田教授)。
- 4.12 (水) 「大学とはなにか」(基幹教育総合科目)開講(藤岡准教授)。
- 4.19 (水) 新採用職員研修の一環として、折田教授「九大の歴史に触れる」を講義(於伊都キャンパスゲストハウス)。
「伊都キャンパスを科学するⅠ」(基幹教育総合科目)の一環として、折田教授「九州大学史と伊都キャンパス」を講義。
- 4.20 (木) TVQ九州放送より電話取材(六本松キャンパスの歴史の件)。
- 4.24 (月) 元九大生協職員、資料調査のため来館(5月1日、8日、15日、22日、29日、6月1日、5日、19日、7月3日、10日、13日、24日、31日、8月4日、7日、18日、28日、9月11日、15日、25日、28日、10月6日、16日、23日、30日、11月6日、13日、20日、21日、27日、30日、12月4日、11日、25日も同様)。
- 4.27 (木) 第30回大学文書館委員会開催。
- 4.29 (土) 奥田八二日記研究会開催(於大学文書館。5月20日、6月24日、8月30日、11月25日も同様)。
- 5.1 (月) 福岡県立大学名誉教授、資料調査のため来館(8月4日、18日、23日、31日、9月4日、7日、11日、13日、22日、26日、10月2日、12月26日も同様)。
- 5.9 (火) 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻受講生一行、大学文書館見学のため来館。
- 5.10 (水) 農学研究院森林政策学研究室より資料寄贈。
- 5.11 (木) 北九州市立大学文学部松尾太加志教授より資料寄贈。
- 5.24 (水) 九大フィルハーモニー・オーケストラより資料整理のため来館(25日、26日、29日、31日、6月7日、20日、8月23日、24日、9月7日、22日、29日、10月2日、10日、11日、12月8日も同様)。
- 5.29 (月) 徳廣義男氏より資料寄贈。
- 5.30 (火) 川畑由美氏、事務補佐員退任。
- 6.2 (金) 大阪大学アーカイブズより大学文書館視察のため来館。
折田教授、NHK福岡放送局「ロクいち!福岡 九大米軍機墜落49年よみがえる証言」に出演・コメント。
- 6.6 (火) 国立歴史民俗博物館より企画展「「1968年」—無数の問いの噴出の時代—」準備等のため来館(8月2日、9月26日、12月19日も同様)。
- 6.8 (木) 平成29年度全国公文書館長会議開催(折田教授出席。於東京都ベルサール飯田橋ファースト。~9日)。
- 6.15 (木) 韓国梨花女子大学より大学文書館視察のため来館。
福岡県人権研究所より大学文書館視察のため来館。
- 6.16 (金) 箱崎キャンパスの施設移転に係る検討ワーキンググループ開催(宮本一夫館長、折田副館長出席。7月25

- 日、9月27日も同様)。
 京都大学大学文書館より大学文書館視察のため来館。
- 6.19 (月) 九大フィルハーモニー・オーケストラより資料寄贈。
- 6.21 (水) 新任係長・専門職員級研修の一環として、折田教授「九大の歴史について」を講義(於伊都キャンパスゲストハウス)。
- 7.6 (木) 文学部名誉教授、資料調査等のため来館(13日、8月31日、9月12日、27日、29日、10月4日、5日、13日、18日、19日、26日、11月2日、17日、30日、12月1日、7日、13日、14日、26日、1月4日、5日、10日も同様)。
- 7.14 (金) 総務部総務課と移転、法人文書移管等の件につき打ち合わせ(9月28日、10月11日、25日、11月7日、12月18日も同様)。
- 7.15 (土) 学習院大学人文科学研究科アーカイブズ学専攻一行、大学文書館視察のため来館。
- 8.18 (金) 西日本文化協会より大学文書館視察のため来館。
- 8.22 (火) 福岡女子大学国際文理学部准教授、資料調査のため来館(9月13日も同様)。
- 8.25 (金) 名桜大学国際学群上級准教授、大学文書館視察のため来館。
- 8.29 (火) 福岡共同公文書館より大学文書館視察のため来館。
- 8.31 (木) 相良美里氏、事務補佐員退任。
- 9.1 (金) 江頭実生氏、事務補佐員就任。
- 9.7 (木) 読売新聞西部本社記者、取材のため来館(写真展「ありがとう箱崎キャンパス」の件。8日も同様)。
- 9.12 (火) 農学部附属農場より資料移管。
- 9.15 (金) 「あの日あの時この時代—ファントム墜落50周年・さよなら箱崎キャンパス」編集委員会より資料調査のため来館(10月26日、11月21日、30日、12月27日、1月10日、30日も同様)。
- 9.21 (木) 本村暁氏(医学部卒業生)来館、資料寄贈。
- 10.1 (日) 九州大学附属図書館・大学文書館・
- 文学部主催の写真展「ありがとう箱崎キャンパス」開催(～平成30年7月31日)。
- 10.4 (水) 「九州大学の歴史」(基幹教育総合科目)開講(折田教授)。
- 10.5 (木) NHKプラネット九州より取材のため来館(九大フィルハーモニー・オーケストラの件)。
- 10.13 (金) 小野保和氏、テクニカルスタッフ退任。
- 10.18 (水) 京都大学大学文書館教授、資料調査のため来館。
- 10.21 (土) 西日本文化協会主催・大学文書館協力「箱崎キャンパス建築ツアー」開催(折田教授解説・案内)。
- 10.23 (月) 塩川郁夫氏(元医学部附属病院技官)来館、資料寄贈。
- 11.8 (水) AFELiSA 2017(International Symposium on Agricultural, Food, Environmental and Life Sciences in Asia)開催、折田教授、藤岡准教授報告。
- 11.11 (土) 折田教授、テレビ西日本「土曜NEWS ファイル CUBE キューぶらり ディープな箱崎をぶらり」に出演・コメント。
- 11.15 (水) 総合研究博物館より資料移管。
- 11.18 (土) 福岡共同公文書館開館5周年記念講演会・シンポジウム「アーカイブズが築く未来—共同公文書館のチャレンジ」開催(折田教授、コーディネーターとして参加。於福岡共同公文書館)。
- 11.20 (月) 放送大学教授、大学文書館視察のために来館。
- 12.1 (金) 川畑由美氏、瓜生敏子氏、事務補佐員就任。
- 12.9 (土) 2017年度九州史学会大会シンポジウム「九州大学箱崎キャンパスの百年—さようなら箱崎キャンパス—」開催、宮本館長「趣旨説明」、折田教授「九州帝国大学の創設・発展と箱崎キャンパス」、藤岡准教授「戦後の九州大学と箱崎—高度経済成長下の変容—」を報告。
- 12.12 (火) 読売新聞西部本社記者、取材のため来館(アインシュタイン来学の件)。

- 14日、18日も同様)。
 12.14 (木) NHK福岡放送局より取材のため来館(米軍機墜落および箱崎キャンパス移転の件。18日、26日も同様)。
 12.18 (月) 田中一夫氏来館、資料寄贈。
 12.21 (木) 学務部学務企画課より文書移管。
 1.5 (金) 九州朝日放送より電話取材(米軍機墜落の件)。
 福岡県人権研究所より資料調査のため来館。
- 折田教授、NHK福岡放送局「ロクいち!福岡 九大箱崎キャンパス解体校舎の記録を残す」に出演・コメント。
 1.12 (金) アジア歴史資料センターより資料調査のため来館。
 1.15 (月) 折田教授、NHK福岡放送局「ロクいち!福岡 九大米軍機墜落50年 風化防ぐ取り組み」に出演・コメント。

九州大学百年史編集小委員会名簿

委員長	法 院 教 授 熊野 直樹	委 員	シ 情 院 教 授 荒木啓二郎
委員	文 書 館 教 授 折田 悦郎		(2017年 3月31日現在)
〃	比 文 院 教 授 中野 等		

九州大学百年史編集室名簿

室 長	理 事 事務局長 玉上 晃	専任教員	助 教 市原 猛志
副室長	副 学 長 教 授 宮本 一夫	テクニカルスタッフ	徳安 祐子
〃	法 院 教 授 熊野 直樹	〃	加藤 絢子
専任教員	准教授 藤岡健太郎	事務補佐員	中村 和泉
〃	助 教 井上美香子	〃	田籠 亜起
〃	助 教 官田 光史		(2017年 3月31日現在)

百年史編集室日誌抄録 (2016年 9月~2017年 3月)

- | | |
|--|--|
| 3.6 (月) 第15回百年史編集小委員会開催。 | 3.31 (金) 藤岡健太郎准教授、井上美香子助教、官田光史助教、市原猛志助教、徳安祐子氏(テクニカルスタッフ)、加藤絢子氏(テクニカルスタッフ)、中村和泉氏(事務補佐員)、田籠亜起氏(事務補佐員) 退任。百年史編集室閉室。 |
| 3.10 (金) 第15回百年史編集委員会(書面会議)開催。 | |
| 3.31 (金) 通史編Ⅰ・通史編Ⅱ・通史編Ⅲ・部局史編Ⅲ・部局史編Ⅳ・資料編Ⅲ・資料編Ⅳ公開開始。
玉上晃室長、宮本一夫副室長、熊野直樹副室長退任。 | |

九州大学大学文書館ニュース 第41号

発行日 2018年 3月31日

編 集 行
 発 行 九州大学大学文書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel:092-642-2292 Fax:092-642-7646

Kyushu University Archives

印 刷 株式会社ミドリ印刷